

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-214156

(43) 公開日 平成8年(1996)8月20日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 4 N 1/40  
B 4 1 J 2/485  
G 0 6 T 5/30

H 0 4 N 1/ 40

F

B 4 1 J 3/ 12

G

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 15 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平7-16199

(22) 出願日 平成7年(1995)2月2日

(71) 出願人 000005496

富士ゼロックス株式会社

東京都港区赤坂二丁目17番22号

(72) 発明者 原 健児

神奈川県海老名市本郷2274番地 富士ゼロ  
ックス株式会社内

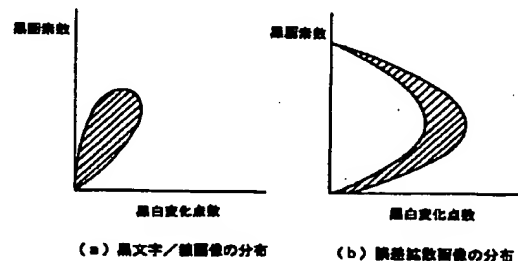
(74) 代理人 弁理士 川▲崎▼ 研二 (外1名)

(54) 【発明の名称】 画像処理装置

(57) 【要約】

【目的】 画像データに対してスムージング処理を施す際に、スムージング処理を制限すべきイメージ領域（写真、網かけ部分等の中間調の誤差拡散画像）と、スムージング処理を制限すべきでない文字領域（黒文字、線画等）とを判別し、選択的にスムージング処理を施す。

【構成】 参照領域（例えば“17×9”マトリクス）内で黒画素数と黒白変化点数（主走査方向および副走査方向に沿って画素値の変化する回数）とをカウントすると、図9に示すように、画像データの種類に応じて分布の傾向は異なることが判明した。そこで、参照領域内において黒画素数および黒白変化点数をカウントする回路と、これらのカウント結果に応じて画像データの種別を判定する判定回路と、その判定結果に応じてスムージング処理を施す回路とを設けた。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 画像データの所定領域内における所定種類の画素の数を計数する第1の計数手段と、前記所定領域内において、前記所定種類の画素が他の種類の画素と隣接する回数を計数する第2の計数手段と、前記第1の計数手段および前記第2の計数手段における計数結果に基づいて前記所定領域の種別を判定する領域判定手段とを具備することを特徴とする画像処理装置。

【請求項2】 前記画像データは黒画素および白画素から成る二値画像データであり、前記第1の計数手段は前記黒画素の数または前記白画素の数を計数するものであり、前記第2の計数手段は前記所定領域内で主走査方向および副走査方向に沿って画素の白黒状態が変化する回数を計数するものであり、前記領域判定手段は前記所定領域はスムージング処理を制限すべき領域であるか否かを判定することを特徴とする請求項1記載の画像処理装置。

【請求項3】 前記所定領域の画像データは所定のパターン条件を満たすか否かを判定するパターン条件判定手段と、前記パターン条件判定手段の判定結果と前記領域判定手段の判定結果とに基づいて、前記所定領域内の画像データに適宜スムージング処理を施すスムージング手段とを具備することを特徴とする請求項2記載の画像処理装置。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、複写機やプリンタ等に用いて好適な画像処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】複写機、プリンタ等によって二値画像を出力する場合、出力装置の解像度が低い場合には、斜線部などにジャギーが発生し画像品質が劣化する。これに対して、高品質の画像出力を得るべく、種々のスムージング処理技術が提案されている。しかし、スムージング処理を無条件に施すと、不具合の生じる場合がある。すなわち、画像データに文字領域（黒文字、線画等の領域）とイメージ領域（網かけ、写真等の領域）とが含まれる場合、イメージ領域にスムージング処理が施されると、その階調特性が崩れ、画像品質が悪化する。このため、イメージ領域についてスムージング処理を回避すべく、以下のような技術が提案されている。

【0003】まず、特開昭61-80961号公報にあっては、特定されたブロック内の濃度レベル分布パターンと予め設定したパターンとを照合し、該ブロックは文字領域であるかイメージ領域であるかを判別する技術が開示されている。また、特開平2-112966号公報にあっては、特に領域判定を行わず、パターンマッチングに基づいてスムージング処理を行う技術が開示されている。

【0004】また、特開平4-189564号公報にあっては、ホストコンピュータから供給されるデータのコードに基づいてイメージ部分のスタート/エンドアドレスを記憶し、このアドレスに基づいてスムージング機能をオン/オフする技術が開示されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかし、特開昭61-80961号、特開平2-112966号公報に開示されたものにあっては、考えられる全てのパターンを記憶する必要があり、膨大な記憶領域が必要になるという問題があった。また、記憶するパターン数を減少させた場合は、イメージ領域であるにもかかわらずスムージング処理が施され、画像品質が悪化する。また、特開平4-189564号公報のものは、ホストコンピュータからデータのコードが供給されることを必須としており、そのようなコードが得られない複写機等に適用することは不可能であった。この発明は上述した事情に鑑みてなされたものであり、回路規模が小さく、汎用性に富み、画像データの種別を正確に判別できる画像処理装置を提供することを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため請求項1記載の構成にあっては、画像データの所定領域内における所定種類の画素の数を計数する第1の計数手段と、前記所定領域内において、前記所定種類の画素が他の種類の画素と隣接する回数を計数する第2の計数手段と、前記第1の計数手段および前記第2の計数手段における計数結果に基づいて前記所定領域の種別を判定する領域判定手段とを具備することを特徴とする。

【0007】また、請求項2記載の構成にあっては、請求項1記載の画像処理装置において、前記画像データは黒画素および白画素から成る二値画像データであり、前記第1の計数手段は前記黒画素の数または前記白画素の数を計数するものであり、前記第2の計数手段は前記所定領域内で主走査方向および副走査方向に沿って画素の白黒状態が変化する回数を計数するものであり、前記領域判定手段は前記所定領域はスムージング処理を制限すべき領域であるか否かを判定することを特徴とする。

【0008】また、請求項3記載の構成にあっては、請求項2記載の画像処理装置において、前記所定領域の画像データは所定のパターン条件を満たすか否かを判定するパターン条件判定手段と、前記パターン条件判定手段の判定結果と前記領域判定手段の判定結果とに基づいて、前記所定領域内の画像データに適宜スムージング処理を施すスムージング手段とを具備することを特徴とする。

【0009】

【作用】請求項1、2記載の構成によれば、第1の計数手段は画像データの所定領域内における所定種類の画素の数を計数する。また、第2の計数手段は、前記所定領

域内において、所定種類の画素が他の種類の画素と隣接する回数を計数する。そして、判定手段は第1の計数手段および第2の計数手段における計数結果に基づいて所定領域の種別を判定する。

【0010】さらに、請求項3記載の構成によれば、パターン条件判定手段は所定領域の画像データは所定のパターン条件を満たすか否かを判定し、スムージング手段はパターン条件判定手段の判定結果と領域判定手段の判定結果とに基づいて、所定領域内の画像データに適宜スムージング処理を施す。

【0011】

【実施例】

#### A. 実施例の原理

##### A-1. スムージング処理

まず、本願実施例におけるスムージング処理の原理を図2を参照し説明する。同図(a)はスムージング処理が施される前の画像データであり、格子の各升目が一画素の単位になっている。以下、各画素の位置は、主走査方向の座標(a, b, c, ...)と副走査方向の座標(1, 2, 3, ...)によって、例えば「b3」のように表現する。また、「黒」という文字が書かれた画素は全黒画素であり、何も書かれていない画素は全白画素である。図2(a)においては、全ての画素は全黒または全白である。

【0012】次に、図2(a)の画素にスムージング処理を施した後の画像データを同図(b)に示す。この図において、一部が黒色の画素(以下、スムージング画素という)は、黒色の部分をハッチングによって表示する。同図(a), (b)を比較すると、例えば同図(a)の座標c4~c7の全黒画素と座標c8~c11の全白画素とは、同図(b)においてはスムージング画素に変換されている。これらスムージング画素の黒色部分の面積は、副走査方向に下にいくほど小となっている。また、その他のエッジ部分の画素も同様に変換されている。

【0013】ところで、同図(a)の左端のエッジ部の全黒画素に着目すると、副走査方向に全黒画素が8回連続した後、主走査方向に1回シフトするようなパターンが続いている。一方、同図(b)によれば、例えば座標c4~c11の各スムージング画素の黒色部分の面積は、副走査方向に向かうに従って一画素の約「1/8」ずつ減少している。このように、周囲の画素との関係に基づいて各スムージング画素における黒色部分の面積を決定しなければ、適切なスムージングを施すことができない。

【0014】このため、本実施例にあっては、まず画像データの中から処理対象となる画素(以下、注目画素という)を中心として、主走査方向に「17」画素、副走査方向に「9」画素の領域(以下、参照領域という)が抽出される。そして、この参照領域のドットパターンが、複数のパターン条件の何れかに合致するか否かが判定され、合致する場合には、黒色部分の面積は該パター

ン条件に対応する値に設定される。

【0015】ここで、図3(a)にパターン条件の一例を示す。この条件は、注目画素の座標「i5」に対して、参照領域内の座標「a5~i5, i4, j4」が白画素であって、座標「a6~i6, j5」が黒画素である場合に満たされる。この条件に対して、黒色部分の面積比率Lは「46.0%」になるように設定されており、座標「i5」の注目画素が出力された結果は同図(b)に示すようになる。なお、参照領域内の他の画素について

10 は、各画素がそれぞれ注目画素になった場合に同様の処理が行われる。図4(a)~(e)に各種のパターン条件の例と、対応する黒色面積比率Lを示す。なお、これらの図において、省略されている部分は全て「処理に関係の無い画素(-)」である。

【0016】図2(b)の画像データは、図2(a)の画像データの各画素について、かかるパターンマッチングが繰り返されることによって得られるものである。ところで、参照領域は複数のパターン条件を満たすことがある。例えば、参照領域が図3(a)のパターン条件を満足するのであれば、図4(d), (e)の条件も必ず満たされる筈である。かかる場合、本実施例にあっては、「有効部分(処理に関係の無い画素を除いた部分)の最も長いパターン条件」のみが満たされたものとみなされる。例えば、図3(a)のパターン条件の有効部分の長さは「10」であり、図4(d)および(e)のものは各々「9」および「4」である。従って、図3(a)の条件が満たされる限り、黒色面積比率Lは「46.0%」に設定される。

【0017】ところで、複写機等で得られる画像データはその内容が千差万別であるが、画像データの各々が短いパターン条件(図4(e)等)を満たす可能性は高く、これによって複雑な画像データに対してもある程度のスムージング処理を施すことが可能である。さらに、同図(d)あるいは図3(a)のように有効部分の長いパターン条件が同時に満たされた場合には、長いパターン条件に基づいてスムージング処理が施されるから、その部分については、一層好適なスムージング処理が行われる。このように、本実施例においては、有効部分の短いパターン条件を各種設定するとともに、長いパターン条件をこれに優先して適用するから、複写機等で得られる画像データに対しても効果的なスムージング処理を行うことが可能になる。

##### 【0018】A-2. パターンマッチング方式

ここで、上述した「スムージング処理」を行うための具体的構成を簡単に説明しておく。まず、各パターン条件が満たされるか否かは適当な論理回路(以下、パターン条件判定回路という)で判定することができる。また、種々の黒色面積比率Lは出力値テーブル(ルックアップテーブル)に記憶させておくといふ。上記パターン条件判定回路をパターン条件の数だけ準備し、対応するパタ

ーン条件が満たされた場合は出力値テーブル参照用のアドレス信号を出力するように各パターン条件判定回路を構成しておく。

【0019】これにより、各パターン条件判定回路は、対応するパターン条件が満たされた場合にはアドレス信号を適宜出力することになる。そして、これらアドレス信号のうち何れかを選択するセレクタを設け、複数のパターン条件判定回路からアドレス信号が出力された場合には最も有効部分の長いパターン条件のアドレス信号を選択し、選択したアドレス信号を出力値テーブルに供給するとよい。

【0020】しかし、上述したスムージング処理を充分に行うためには、数百種類程度のパターン条件が必要である。これらパターン条件に対して優先順位を付与してアドレス信号を選択するためにはセレクタが大規模になる。

【0021】しかし、本発明者が検討したところによれば、同時に満たされることの無い複数のパターン条件をまとめてグループ（パターングループ）を編成し、各パターングループに対して優先順位を定めておけば、回路規模は大幅に縮小できることが判明した。ここでパターングループの編成例を図5～図7に示す。なお、これらの図において“0”は白画素、“1”は黒画素、“2”は処理に関係の無い画素を示す。また、説明の簡易化のため、有効部分の最大長は「5」であるものとする。

【0022】さて、図5～図7においては、各パターン条件は、有効部分の長い順にA～Cのパターングループに分類されている。そして、一のパターングループ内においては、原則として複数のパターン条件が同時に満たされることない。従って、一のパターングループ内のパターン条件判定回路の出力アドレス信号は、例えばオア回路等によって「1」系統のアドレス信号にまとめることができる。これにより、セレクタは「3」系統のアドレス信号（パターングループA～Cに対応するアドレス信号）に対してのみ選択処理を行えばよいから、セレクタをきわめて簡単に構成することができる。

【0023】なお、同時に満たされ得る複数のパターン条件において、出力値テーブル参照用のアドレスが同一である場合は、これら複数のアドレス信号がアドレスバス上で衝突しても差し支えない。従って、本実施例においては、例外的に、一のパターングループ内に同時に満たされ得る複数のパターン条件を含めることもある。

【0024】A-3. スムージング処理の制限  
上述したように、画像データのイメージ部分についてスムージング処理を無条件に施すと、その階調特性が崩れ画像品質が悪化するような不具合を招くため、スムージング処理を制限する必要がある。本実施例においては、所定の判定方法（詳細は後述する）に基づいて、参照領域はイメージ領域であるか文字領域であるかが判定される。

【0025】イメージ領域であるとみなされた参照領域は、スムージング処理が一部制限される。すなわち、図4(a)～(d)のように有効部分の長いパターン条件が満たされた場合は注目画素にスムージング処理が施されるが、同図(e)のように短いパターン条件（例えば有効部分の長さが「4」以下のパターン条件）のみが満たされた場合は、スムージング処理は施されない。イメージ領域は、短いパターンの繰り返しによって構成されるため、これによってスムージング処理を回避することが可能になる。

【0026】一方、イメージ領域に文字や線画が重ねあわされている場合、これら文字等を構成する各画素は長いパターン条件を満たす可能性が高い。長いパターン条件が満たされると、その画素についてはスムージング処理が施される。すなわち、写真イメージに文字や線画が重ね合わされていたり、文字に網かけ等の修飾がなされている場合に、写真イメージや網かけ部分の階調特性を崩すことなく、文字や線画にスムージング処理を施すことができるのである。

#### 【0027】A-4. 領域判定

次に、参照領域の種別（イメージ領域または文字領域）を判定する原理について説明する。まず、参照領域内の黒画素数をカウントし、このカウント結果が所定値を超えるか否かに基づいて参照領域の種別を判定することが考えられる。しかし、単に黒画素数にのみ基づいた判定では、判定結果が不正確になる。その理由を図8を参照し説明する。

【0028】同図(a)は、“17×9”マトリクス内に黒文字の一部を表示したものである。また、同図(b)および(c)は、同マトリクス内にドット集中型ディザ画像および誤差拡散画像を各々表示したものである。これらの図における黒画素数および黒白変化点数（主走査方向および副走査方向に沿って参照領域内の画素色が変わる回数）を同図(d)に示す。同図(d)によれば、同図(a)～(c)の黒画素数は全て同一であり、黒画素数のみによって参照領域の種別を判定することは困難であることが判る。

【0029】同様に、黒白変化点数のみに基づいても参照領域の種別を判定することは困難である。何故なら、ドット集中型ディザ画像あるいは誤差拡散画像であっても、明るい領域では黒白変化点数は少なくなるからである。これに対して、本発明者が検討したところによれば、黒画素数と黒白変化点数との相関関係は参照領域の種類によって異なることが判明した。すなわち、両者の相関関係は、文字領域（黒文字／線画像等）では図9(a)に示すようになり、イメージ領域（誤差拡散画像）では同図(b)に示すようになる。

【0030】従って、参照領域内における黒画素数と黒白変化点数とを計数することにより、参照領域の種別をきわめて正確に判別することが可能になる。例えば、黒

10

20

30

40

50

画素数と黒白変化点数とから成る2次元空間において、図10(a)~(d)に示すように文字領域とイメージ領域との境界を設け、これに基づいて参照領域の種類を判定するとよい。

#### 【0031】A-5. ドット径の制御

白黒の二値画像しか出力できない装置によって階調表現を行う場合、「疑似中間調」と称される手法が用いられる。すなわち、再現したい濃度に応じて、単位面積内の黒画素の数が増減される。かかる場合、ドット径をどのように定めるかは重要な問題になる。まず、ドット径が小である場合および大である場合において、高濃度領域を再現した状態を図11(a)および(b)に示す。ドット径が大である場合は、同図(b)に示すように、表示領域を隙間無く埋めつくすことができるが、ドット径が小である場合はドット間に隙間が生じる。このため、ドット径を小とすると、高濃度領域のべた黒の再現性が劣ることになる。

【0032】次に、ドット径が小である場合および大である場合において、低濃度領域を再現した状態を図12(a)および(b)に示す。ドット径が小である場合は、同図(a)に示すように、一定領域内におけるドット数を多くすることができる。一方、ドット径が大である場合は、同図(b)に示すように、ドット数が減少する。このように、ドット径を大とすると、大きなドットがまばらに存在することになるから出力画像が粗くなり、低濃度領域で画像にざらつきが発生する。

【0033】以上のように、ドット径を小とした装置および大とした装置は、それぞれ一長一短がある。そこで、本実施例においては、高濃度領域においてはドット径を大とする一方、低濃度領域においてはドット径を小とし、高濃度領域のべた黒の忠実な再現と低濃度領域のざらつきの低減とを共に達成することにしている。その原理を図14を参照し説明する。

【0034】図14は、多値画像データ(横軸)を疑似中間調の二値画像データ(縦軸)に変換する場合の変換特性を示す。図において横軸は、多値画像データの濃度であり、縦軸は単位面積あたりの二値画像データのドット数に対応する値である。二値画像データは、この出力値に応じた濃度を有するドット集中型ディザ画像または誤差拡散画像(図8(a),(b)参照)に変換されることになる。

【0035】さて、図14において特性Aは従来の装置に用いられていたものであり、同一径のドットを用いて疑似中間調画像を形成した場合に入力画像データ(多値画像データ)に応じた濃度が得られるように設定されている。一方、特性Bは本実施例に用いられるものであり、低濃度領域においては特性Aよりも高濃度になるように設定されている。従って、実際に二値画像データを出力する際に低濃度領域におけるドット径を小とし、最終的な疑似中間調画像の濃度が特性Aに一致(または近

似)するようにしておくことよい。これにより、高濃度領域のべた黒の忠実な再現と低濃度領域のざらつきの低減とを共に達成することが可能になる。

#### 【0036】A-6. 複数のマトリクスによるドット径の制御

次に、画像出力時におけるドット径の制御原理についてさらに詳細に説明しておく。上述したように、多値画像データの濃度(図14の横軸)に対応してドット径を制御できれば、最終的な濃度特性を特性Aに一致させることができる。しかし、多値画像データは二値画像データに変換された後に直ちに破棄されることが普通である。かかる場合は、実際に画像出力を行う際には多値画像データは残っていない。従って、ドット集中型ディザ画像または誤差拡散画像(図8(a),(b)参照)に基づいて、多値画像データの濃度を推測しつつドット径の制御を行う必要が生じる。

【0037】多値画像データの濃度を推測するには、参照領域内の黒画素数をカウントすればよいが、かかる場合に参照領域の大きさをどの程度に設定するかが重要な問題になる。参照領域を小とした場合(例えば“3×3”マトリクスを用いた場合)は、注目画素周辺の僅かな部分に基づいて該注目画素のドット径が決定されることになる。これでは、なだらかな階調制御を行うことは困難になる。

【0038】一方、参照領域を大とした場合(例えば“17×9”マトリクスを用いた場合)は、注目画素周辺の比較的広い部分に基づいて該注目画素のドット径が決定されることになる。従って、なだらかな階調制御を行うことは可能である。しかし、かかる場合は、急峻な階調制御を行うべき部分(例えば黒文字や線画のエッジ等)に対してもなだらかな階調制御が行われるという問題がある。

【0039】そこで、本実施例においては、大小二つのマトリクス(“17×9”および“3×3”)を用いて、ドット径の決定が行われる。その詳細を図13を参照し説明する。図において横軸は“17×9”マトリクス内の黒画素数であり、縦軸はドット径に対応する出力値である。なお、出力値が大となるほどドット径も大となる。また、同図に示された複数の特性は、“3×3”マトリクス内の黒画素数(「1」~「9」)に応じて、対応するものが選択される。

【0040】A-7. 黒画素のみに対する多値化処理  
上述したドット径の制御は、二値画像データを多値画像データに変換する処理と考えることができる。その際、二値画像データの全ての画素を注目画素とし、該注目画素の周辺(“3×3”マトリクス)の黒画素数に応じてドット径を設定する手法も考えられる。その一例を図15に示す。同図(a)は入力二値画像データであり、全ての画素に対して多値化処理を施した結果を同図(b)に示す。

【0041】ところで、同図(a)においては、直線A-A' およびB-B' 上に線画らしきものが描かれていると認められる。この「線画らしきもの」は同図(b)においては全く認識できない。これに対して、本実施例では黒画素のみに対して多値化処理が行われる。本実施例によって得られた多値画像データを同図(c)に示す。この図によれば、直線A-A' およびB-B' 上の「線画らしきもの」が明らかに保存されており、画像の再現性の高いことが判る。

【0042】A-8. スムージング処理とドット径制御の切替

次に、上述したスムージング処理とドット径制御とは同一の注目画素に対して共に適用されることがあるか否かを検討する。まず当該注目画素がイメージ部分を構成する場合にはスムージング処理を施すべきでないことは上述した通りである。従って、イメージ部分を構成する画素に対しては、ドット径制御のみを行えばよい。

【0043】一方、黒文字や線画等は、高濃度領域（べた黒）のみによって構成されている。図14を参照すると、高濃度領域（同図の「入力値」の高い部分）においては、従来のものと同様に、実際の階調度に応じて出力値が設定されている。従って、黒文字や線画等を構成する画素に対しては、階調特性を変更したことに基づく径制御を行う必要は無い。従って、黒文字や線画等を構成する画素に対しては、スムージング処理のみを行えばよい。

【0044】このように、スムージング処理とドット径制御とは、画素の種類（黒文字や線画等を構成する画素またはイメージ部分を構成する画素）に応じて択一的に実行すればよいから、何れか一方の処理を選択するセレクトを設け、該セレクトを画素の種類に応じて切り換えるとよい。

【0045】なお、ここにいう「黒文字や線画等を構成する画素」および「イメージ部分を構成する画素」は、図10(a)~(d)において説明した「文字領域」および「イメージ領域」とは異なる概念である。すなわち、「文字領域」および「イメージ領域」とは、参照領域（例えば“17×9”マトリクス）全体の性質を示す語句であって、個々の画素の性質を表す語句ではない。これに対して、各画素が「黒文字や線画等を構成する画素」であるか「イメージ部分を構成する画素」であるかは、各画素毎に判定される。

【0046】従って、当然のことながら、「イメージ領域」の内部に「黒文字や線画等を構成する画素」と「イ

メージ部分を構成する画素」とが混在することもあり得る。「黒文字や線画等を構成する画素」および「イメージ部分を構成する画素」の区別は、上記セレクトに対する選択信号（終段セレクト選択信号F\_SEL。詳細は表2を参照して後述する）によって表示される。

【0047】B. 実施例の構成

B-1. 実施例の全体構成

以下、図1を参照して本発明の一実施例の構成について説明する。図において1はTRC変換回路であり、画像入力装置（図示せず）から多値画像データを受信する。そして、TRC変換回路1は、この多値画像データの階調特性を図14の特性Bに基づいて変換し、変換した多値画像データを出力する。

【0048】次に、2は二値化回路であり、TRC変換回路1から供給された多値画像データを二値画像データ（誤差拡散画像）に変換し出力する。3はFIFOバッファであり、二値化回路2から出力された二値画像データを順次記憶してゆき、古いデータから順に破棄してゆく。4および5はマトリクス生成回路であり、FIFOバッファ3内の所定アドレスの画素を注目画素とし、各々該注目画素を中心とする“3×3”マトリクスおよび“17×9”マトリクスを抽出して出力する。

【0049】6は黒画素数計数回路であり、“3×3”マトリクス内における黒画素数BK1をカウントし出力する。同様に、黒画素数計数回路7は、“17×9”マトリクス内における黒画素数BK2をカウントし出力する。8は黒白変化点数計数回路であり、“17×9”マトリクス内における黒白変化点数CH1を計数し出力する。

【0050】9は疑似中間調判定回路であり、図10(a)~(d)の何れかの特性に基づいて、参照領域（“17×9”マトリクスに係る領域）は文字領域であるのかイメージ領域であるのかを判定し、画像種別判定信号PSLを出力する。すなわち、画像種別判定信号PSLは、参照領域が「文字領域である」と判定された場合には“0”に設定され、「イメージ領域である」と判定された場合には“1”に設定される。なお、疑似中間調判定回路9は、例えば黒画素数BK1および黒白変化点数CH1をアドレス信号とし、画像種別判定信号PSLを記憶内容とするルックアップテーブルによって実現できる。次に、13は出力値テーブル（ルックアップテーブル）であり、そのメモリマップを下表1に示す。

【0051】

【表1】

内 容		印字位置
全白パターン		—
スムージング画素 (L=0%)		左
スムージング画素 (L=0%)		右
スムージング画素 (L=1%)		左
スムージング画素 (L=1%)		右
⋮		⋮
スムージング画素 (L=100%)		右
全黒パターン (M=100%)		中央
ドット径制御画素 (M=98%)		中央
⋮		⋮
ドット径制御画素 (M=0%)		中央

【0052】表1に示すように、出力値テーブル13は、全白パターンおよび各種のスムージング画素に対応する面積比率L（図3、図4参照）と、各種の全黒パターンおよびドット径制御画素に対応する面積比率（図13の縦軸に対応する。以下、面積比率Mという）とを記憶する。次に、11はルックアップテーブルであり、黒画素数BK1、BK2に基づいて、出力値テーブル13内の全黒パターンまたはドット径制御画素をアクセスするためのアドレス信号AD\_Mを出力する。

【0053】次に、10はパターンマッチング回路であり、“17×9”マトリクスおよび画像種別判定信号PSLに基づいて、アドレス信号AD\_Lと、終段セクタ選択信号F\_SELとを出力する。なお、詳細は後述するが、アドレス信号AD\_Lは、出力値テーブル13の全白パターン、スムージング画素または「面積比率M=100%」の全黒パターンを指定する信号である。次に、12はセクタであり、終段セクタ選択信号F\_SELが“1”である場合はアドレス信号AD\_Lを出力値テーブル13に供給する一方、選択信号F\_SELが“0”である場合はアドレス信号AD\_Mを出力値テーブル13に供給する。

【0054】出力値テーブル13は、供給されたアドレス信号に基づいて、画素補償値を出力する。この画素補償値は、例えばレーザービームの照射時間と照射タイミングとを示すものである。すなわち、画素補償値が所定の画像出力装置（図示せず）に供給されると、この値に応じたドットが用紙に印字されることになる。

【0055】B-2. パターンマッチング回路10の構成

次に、パターンマッチング回路10の詳細構成を図16を参照し説明する。図において102はアンド回路であり、注目画素（以下、CPXという）と、その主走査方向に隣接する二個の画素との論理積を出力する。すなわ

ち、アンド回路102は、図7の左側のパターン条件は満足されているか否かを判定する。次に、104はグループCアドレスバスであり、その全ビットは抵抗器（図示せず）によって“0”レベルにプルダウンされている。但し、一部のビットはダイオードを介してアンド回路102の出力端に接続されている。

【0056】従って、アンド回路102の出力信号が“1”になると、これら一部のビットが“1”になる。そして、グループCアドレスバス104のビット列は、出力値テーブル13において全黒パターン（M=100%）を記憶するアドレスを指定するようになっている。また、アンド回路103は、注目画素CPXとその副走査方向に隣接する二個の画素との論理積を出力する。すなわち、アンド回路103は、図7の右側のパターン条件は満足されているか否かを判定する。そして、アクセスすべき出力値テーブル13内のアドレスに応じて、アンド回路103の出力端とグループCアドレスバス104の一部のビットとはダイオードを介して接続されている。なお、かかる場合においても、アクセスすべきアドレスは、「全黒パターン（M=100%）」のアドレスである。

【0057】なお、アンド回路102、103に係るパターン条件は同時に満たされることもあるが、アクセスすべき出力値テーブル13のアドレスは同一であるため、これらアドレスがグループCアドレスバス104上で衝突しても問題は生じない。

【0058】パターングループCに属する他のパターン条件についても、アンド回路102、103と同様のアンド回路が設けられ、これらアンド回路は対応するパターン条件が満たされたときに“1”信号を出力する。そして、これらアンド回路の出力端は、アクセスすべきアドレスに応じて、ダイオードを介してグループCアドレスバス104の一部のビットに接続されている。そし



て、パターングループCに属する全てのアンド回路の出力信号の論理和が演算され、この結果がグループCマッチ信号C\_MTとしてセクタ101に供給される。

【0059】すなわち、グループCマッチ信号C\_MTは、パターングループCのうち何れかのパターン条件が満たされた場合に“1”になる。また、グループCアドレスバス104上のアドレス信号は、グループCアドレス信号C\_ADとしてセクタ101に供給される。パターングループA、Bについても、パターングループCと同様の回路が設けられている。

【0060】すなわち、“17×9”マトリクスがパターングループB内の何れかのパターン条件を満たすと、そのパターン条件に応じたグループBアドレス信号B\_ADがセクタ101に供給されるとともに、グループBマッチ信号B\_MTが“1”に設定される。同様に、“17×9”マトリクスがパターングループA内の\*

\*何れかのパターン条件を満たすと、そのパターン条件に応じたグループAアドレス信号A\_ADがセクタ101に供給されるとともに、グループAマッチ信号A\_MTが“1”に設定される。

【0061】なお、アドレス信号A\_AD、B\_ADによって示されるアドレスは、各種の面積比率Lを有するスムージング画素（表1参照）である。また、110はレジスタであり、出力値テーブル13内の全白パターンのアドレスを記憶し、その内容を全白パターンアドレス信号W\_ADとして出力する。さらに、セクタ101には、注目画素CPXと、画像種別判定信号PSLとが供給される。セクタ101は、これら供給された信号に対して、下表2に示すようにアドレス信号AD\_Lと、終段セクタ選択信号F\_SELとを出力する。

【0062】

【表2】

	入力信号					出力信号	
	A_MT	PSL	B_MT	C_MT	CPX	F_SEL	AD_L
(a)	1	—	—	—	—	1	A_AD
(b)	0	1	—	—	1	0	—
(c)	0	1	—	—	0	1	W_AD
(d)	0	0	1	—	—	1	B_AD
(e)	0	0	0	1	—	1	C_AD
(f)	0	0	0	0	1	0	—
(g)	0	0	0	0	0	1	W_AD

### 【0063】C. 実施例の動作

#### C-1. 黒文字、線画等に対する処理

次に、本実施例の動作を説明するが、本実施例は入力画像データの種類に応じて異なる動作を行う。そこで、TRC変換回路1に入力される多値画像データが黒文字、線画等によってのみによって構成される場合を最初に説明する。まず、多値画像データが中間調の領域を含まない場合、TRC変換回路1の出力値は、図14の縦軸における最低値または最高値のうち何れかになる。また、二値化回路2においては、誤差拡散画像等は形成されず、多値画像データのパターンそのものに対応する二値画像データが出力され、FIFOバッファ3に順次記憶される。

【0064】そして、マトリクス生成回路5によって、注目画素CPXを中心とする“17×9”マトリクスが抽出され、黒画素数計数回路7および黒白変化点数計数回路8によって黒画素数BK1および黒白変化点数CH1がカウントされる。ここで、二値画像データが黒文字、線画等のみによって構成されていると、画像種別判定信号PSLは通常は“0”になる。

【0065】ここで、“17×9”マトリクスがパターングループAに属するパターン条件を満たしたとする

と、セクタ101は、終段セクタ選択信号F\_SELを“1”にセットするとともに、アドレス信号AD\_Lを該パターン条件に係るグループAアドレス信号A\_ADに設定する（表2(a)参照）。これにより、グループAアドレス信号A\_ADによって出力値テーブル13がアクセスされ、対応する画素補償値が出力値テーブル13から出力され、スムージング処理の施された画像が画像出力装置（図示せず）から出力されることになる。

【0066】また、パターングループAのパターン条件が満足されずにパターングループBのパターン条件が満足された場合は、アドレス信号AD\_LはグループBアドレス信号B\_ADに設定される（表2(d)参照）。同様に、パターングループA、Bのパターン条件が満足されずにパターングループCのパターン条件が満足された場合は、アドレス信号AD\_LはグループCアドレス信号C\_ADに設定される（表2(e)参照）。

【0067】すなわち、これらアドレス信号によって出力値テーブル13がアクセスされた場合においても、出力画像にスムージング処理等が施される。より正確に述べると、パターングループA、Bによってスムージング処理が施され、パターングループCによって黒文字や線画の内部が全黒パターンに設定される。



【0068】“17×9”マトリクスが何れのパターン条件も満足しない場合は、注目画素CPXの値に応じて処理が異なる。すなわち、注目画素CPXが“0”（白画素）の場合は、アドレス信号AD\_Lとして全白パターンアドレス信号W\_ADが出力される（表2(g)参照）。すなわち、出力画像の対応箇所は白色になる。一方、注目画素CPXが“1”（黒画素）の場合、終段セクタ選択信号F\_SELが“0”になる。これにより、ルックアップテーブル11から出力されるアドレス信号AD\_Mが出力値テーブル13に供給される。

【0069】C-2. 中間調画像に対する処理  
次に、TRC変換回路1に入力される多値画像データが中間調画像である場合の動作を説明する。中間調画像がTRC変換回路1に供給されると、図14の特性Bに基づいて階調変換が行われる。そして、階調変換後の多値画像データは、二値化回路2を介して誤差拡散画像に変換される。

【0070】そして、マトリクス生成回路5によって、注目画素CPXを中心とする“17×9”マトリクスが抽出され、黒画素数計数回路7および黒白変化点数計数回路8によって黒画素数BK1および黒白変化点数CH1がカウントされる。ここで、二値画像データは誤差拡散画像であるから、画像種別判定信号PSLは通常は“1”になる。これにより、スムージング処理の制限が行われるから、何れのパターン条件も満たされない可能性が高い。

【0071】ここで、何れのパターン条件も満たされず、かつ、注目画素CPXが“0”（白画素）である場合、終段セクタ選択信号F\_SELは“1”に設定され、アドレス信号AD\_Lは全白パターンアドレス信号W\_ADに設定される（表2(c)参照）。すなわち、出力画像の対応箇所は白色になる。一方、注目画素CPXが“1”（黒画素）の場合、終段セクタ選択信号F\_SELが“0”になる。これにより、ルックアップテーブル11から出力されるアドレス信号AD\_Mが出力値テーブル13に供給される。

【0072】ここで、アドレス信号AD\_Mは、図13に示す関係に基づいて、対応する面積比率Mが得られるように設定されている。従って、中間調画像のうち低濃度領域については、ドット径が小となる。すなわち、TRC変換回路1によって多値画像データに図14の特性Bに示すような階調特性が付与されていたのに対して、図13に示すようにドット径を制御することにより、最終的に図14(a)に示すものと同様の階調特性を得ることができる。

【0073】C-3. 中間調画像に黒文字、線画等が重なっている場合

中間調画像に黒文字、線画等が重なっている場合の動作は、上述した「中間調画像に対する処理」とほぼ同様の動作が行われる。但し、注目画素CPXが文字等のエッ

ジ部分である場合、該“17×9”マトリクスは、パターングループAのパターン条件を満足する可能性が高い。

【0074】ここで、表2(a)によると、パターングループAのパターン条件が満足された場合は、画像種別判定信号PSL等の値にかかわらず、終段セクタ選択信号F\_SELは“1”になり、アドレス信号AD\_LはグループAアドレス信号A\_ADに設定される。これにより、対応する画素補償値が出力値テーブル13から出力され、スムージング処理の施された画像が画像出力装置（図示せず）から出力されることになる。

【0075】以上説明した各動作のうち何れが実行されるかは、FIFOバッファ3内の“17×9”マトリクスの内容に基づいて決定される。すなわち、二値化回路2から新たな二値画像データが出力されFIFOバッファ3の内容が更新される毎に、これに応じてセクタ101、セクタ12の選択状態が変更される。

【0076】D. 変形例

本発明は上述した実施例に限定されるものではなく、例えば以下のように種々の変形が可能である。

【0077】①上記実施例においては、二値化回路2は中間調画像を誤差拡散画像に変換したが、ドット集中型ディザ画像やドット分散型ディザ画像に変換してもよいことは言うまでもない。

【0078】②上記実施例においては、“3×3”マトリクスおよび“17×9”マトリクスの黒画素数BK1、BK2をカウントすることによってドット径を決定したが、さらに多くのマトリクス生成回路（例えば“5×5”マトリクスを生成する回路）を設け、これらマトリクス内の黒画素数に基づいてドット径を決定してもよい。

【0079】③さらに、上記実施例においては、ドット径を決定するためにマトリクス内の黒画素数を単にカウントしたが、各黒画素に対して重み付けを行い、その結果を集計してもよい。例えば、“5×5”マトリクスであれば、図17に示すような重み付け係数を用いることができる。

【0080】④上記実施例は、TRC変換回路1から出力された多値画像データを二値化回路2を介して二値画像データに変換し、さらにFIFOバッファ3内の二値画像データをルックアップテーブル11を介して多値画像データに変換するものであった。しかし、二値画像データに代えて多値画像データを用いてもよいことは言うまでもない。すなわち、FIFOバッファ3に格納される多値画像データの階調数を“N”とし、アドレス信号AD\_Mによって決定される多値画像データの階調数を“M”とした場合に、“N<M”の関係が成立すれば本発明を適用可能である。

【0081】⑤上記実施例においては、疑似中間調判定回路9をルックアップテーブルによって構成したが、疑

10

20

30

40

50

似中間調判定回路9は他の論理回路によって構成してもよい。例えば、図10(c)の判定条件は図18に示すような回路によっても実現できる。図18において判定回路91は黒白変化点数CH1は所定値A以上であるか否かを判定し、判定回路92は黒画素数BK1は所定値B以上であるか否かを判定する(所定値A、Bは図10(c)参照)。また、判定回路93は、黒白変化点数CH1の「1/2」と所定のオフセット値Cとの合計は黒画素数BK1以上であるか否かを判定する(但し、図10(c)の例ではオフセット値Cは「0」になっている)。そして、総合判定回路94は、判定回路91~93の結果に基づいて、画像種別判定信号PSLを出力する。

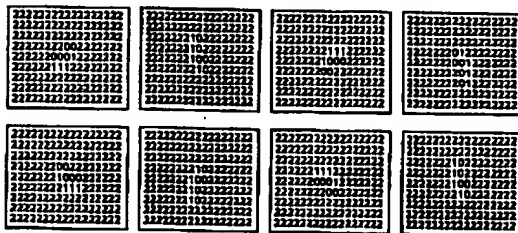
【0082】⑥上記実施例においては、疑似中間調判定回路9、パターンマッチング回路10等によってスムージング処理を行う一方、ルックアップテーブル11等によってドット径を制御する処理を行い、セクタ12によって何れかの処理が選択された。しかし、選択対象となる処理はスムージング処理やドット径の制御に限られるものではなく、これらに代えて他の種々の画像処理を行ってもよい。

【0083】⑦上記実施例においては、黒画素数計数回路6、7は、文字どおり黒画素数を計数したが、一定領域内の白画素数が決定すれば黒画素数は一意に決定される。従って、黒画素数に代えて白画素数を計数してもよいことは言うまでもない。

【0084】

【発明の効果】以上説明したようにこの発明によれば、判定手段は第1の計数手段および第2の計数手段の計数結果に基づいて、所定領域はスムージング処理を制限すべき領域であるか否かを判定する。従って、多大なパターンマッチングを行うことは不要になり、回路規模をき

【図6】



パターングループBに含まれるテンプレートパターン

わめて小さくすることができる。さらに、画像データの種別を表示する情報等を判定手段に供給することは当然に不要であり、本発明はきわめて汎用性に富む。

【図面の簡単な説明】

【図1】 一実施例の構成を示すブロック図である。

【図2】 一実施例の動作説明図である。

【図3】 一実施例の動作説明図である。

【図4】 一実施例の動作説明図である。

【図5】 一実施例の動作説明図である。

【図6】 一実施例の動作説明図である。

【図7】 一実施例の動作説明図である。

【図8】 一実施例の動作説明図である。

【図9】 一実施例の動作説明図である。

【図10】 一実施例の動作説明図である。

【図11】 一実施例の動作説明図である。

【図12】 一実施例の動作説明図である。

【図13】 一実施例の動作説明図である。

【図14】 一実施例の動作説明図である。

【図15】 一実施例の動作説明図である。

【図16】 パターンマッチング回路10のブロック図である。

【図17】 一実施例の変形例の動作説明図である。

【図18】 一実施例の他の変形例の要部のブロック図である。

【符号の説明】

7 黒画素数計数回路(第1の計数手段)

8 黒白変化点数計数回路(第2の計数手段)

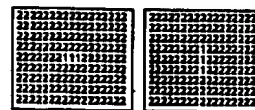
9 疑似中間調判定回路(判定手段)

10 パターンマッチング回路(スムージング手段)

12 セクタ(スムージング手段)

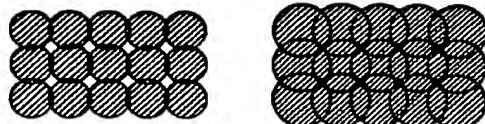
13 出力値テーブル(スムージング手段)

【図7】



パターングループCに含まれるテンプレートパターン

【図11】

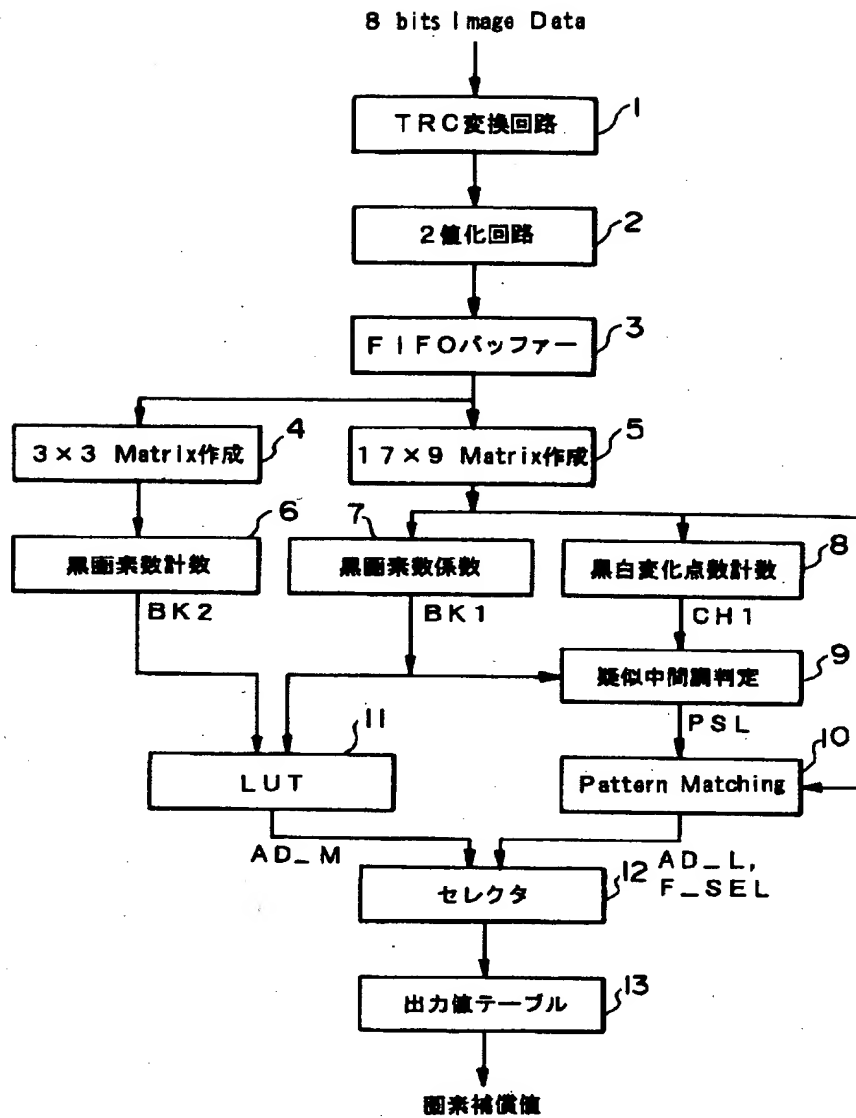


(a)

(b)

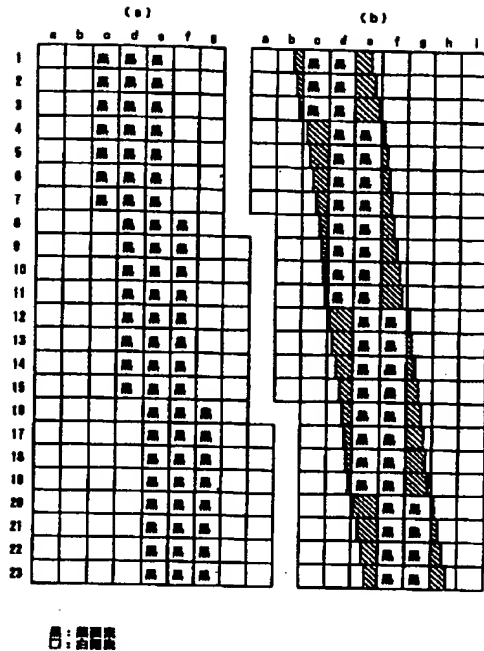
【図1】

【図17】

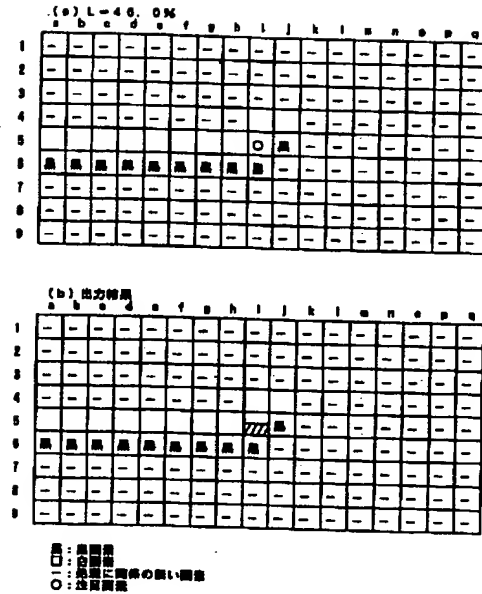


-1/8	-1/16	-1/16	-1/16	-1/8
-1/16	-1/16	7/16	-1/16	-1/16
-1/16	7/16	-1/4	7/16	-1/16
-1/16	-1/16	7/16	-1/16	-1/16
-1/8	-1/16	-1/16	-1/16	-1/8

【図2】

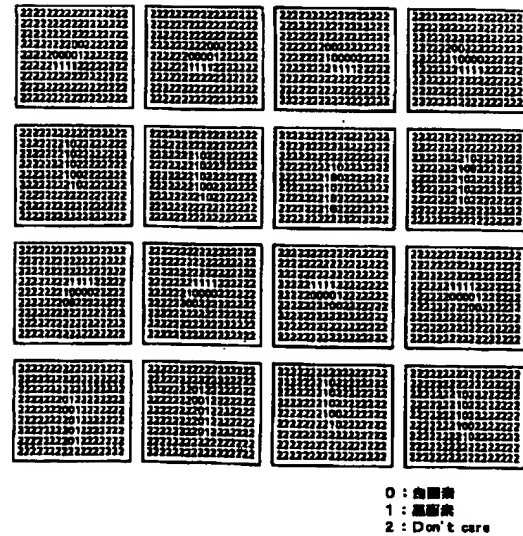
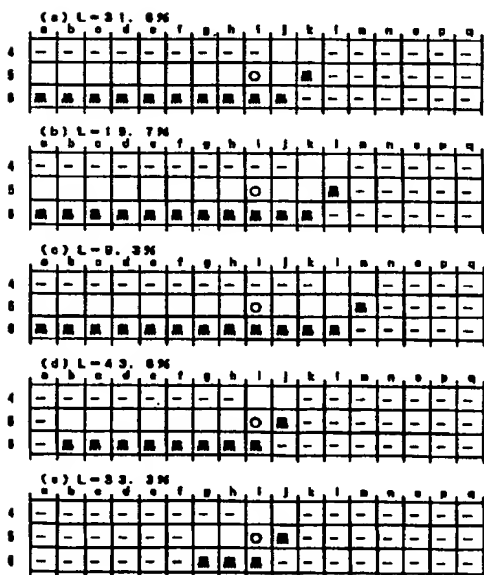


【図3】



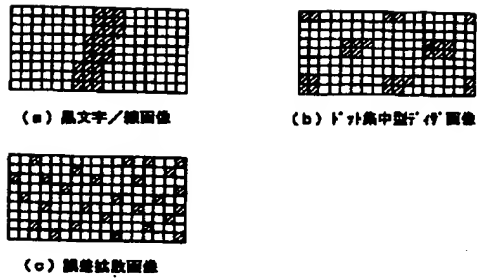
【図5】

【図4】



パターングループAに含まれるテンプレートパターン

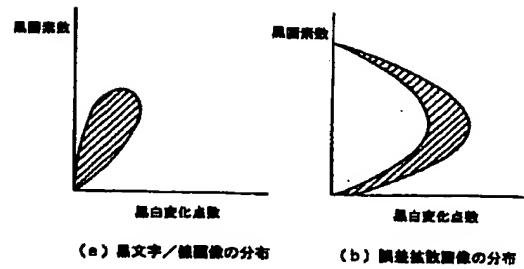
【図8】



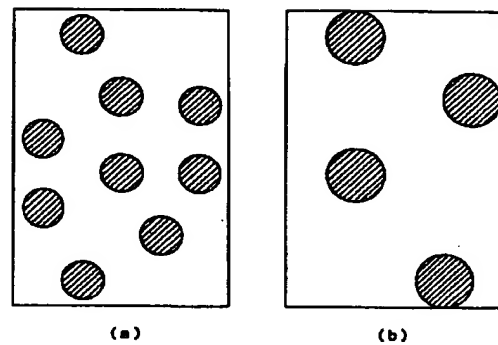
	黒画素数	黒白変換点数
(a)	27	22
(b)	27	44
(c)	27	98

(d) 上記での黒画素数と黒白変換点数

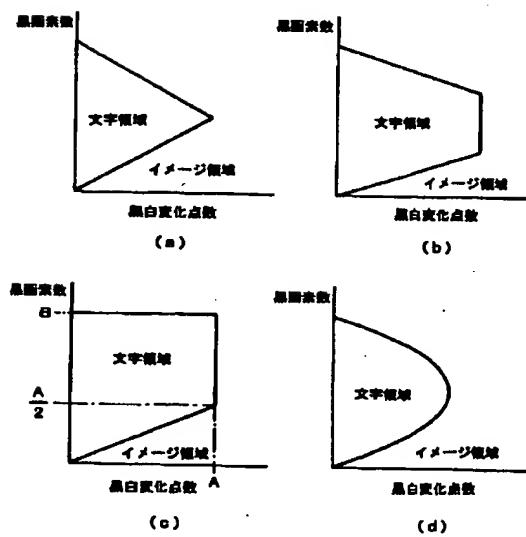
【図9】



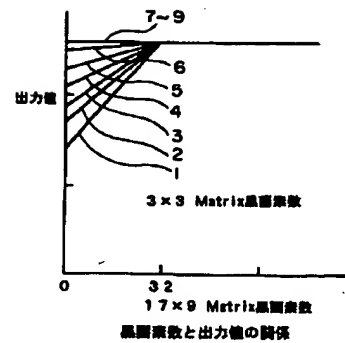
【図12】



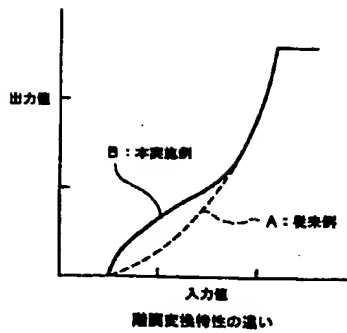
【図10】



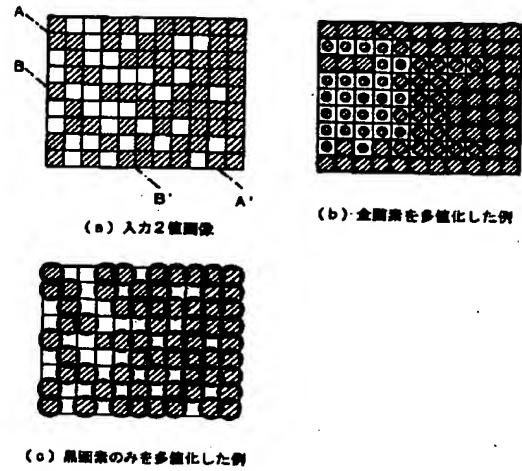
【図13】



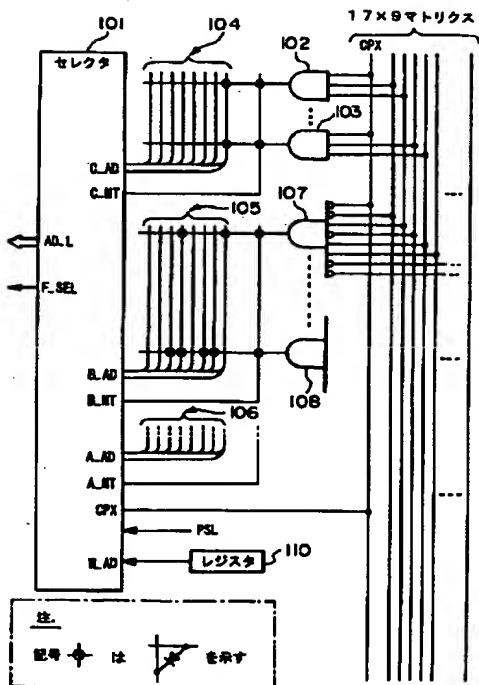
【図14】



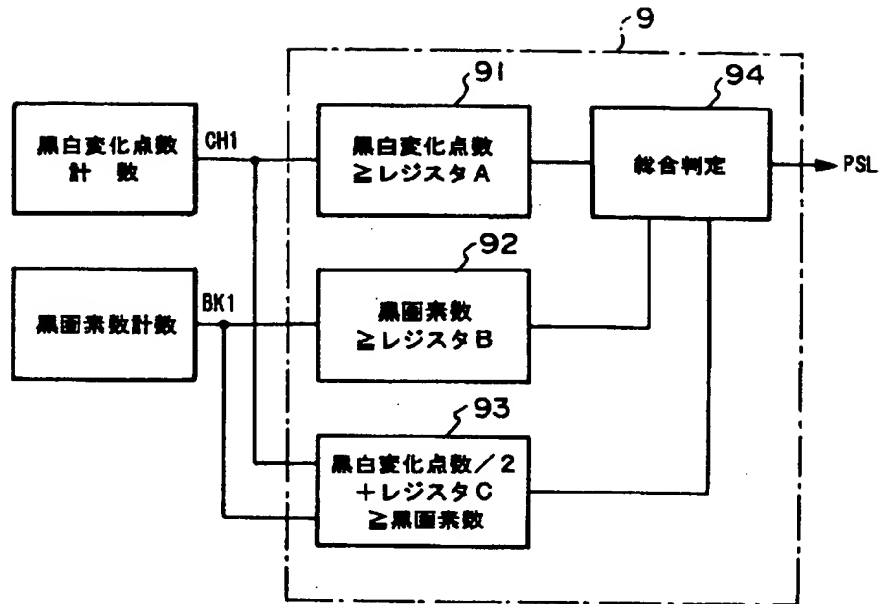
【図15】



【図16】



【図18】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

H04N 1/409

識別記号

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

G06F 15/66

405

H04N 1/40

101 C